

法人設立 50 周年記念誌

— 1971年設立 2021年50年の歩み —

地域と共に



社会福祉法人虹旗社

目 次

- P1 目 次
- P2 発刊によせて 虹旗社理事長 大沼隆
- P3 ご挨拶 東京西部保健生活協同組合理事長 吉岡尚志
- P4 法人理念・法人運営事業所
- P5 法人組織図
- P6 法人のあゆみ
- P7 杉並ゆりかご保育園 園長 佐々木亜古
- P8 々
- P9 々
- P10 々
- P11 杉並ゆりかご保育園利用者元父母会会長 牟田暁子・元父母会会長 小倉博美
- P12 のはら保育園 園長 木澤恵美子
- P13 々
- P14 々
- P15 々
- P16 のはら保育園利用者のはらを育む会 石原大地
- P17 々 小林淑夫
- P18 杉並保育園 園長 仲村きょう子
- P19 々
- P20 々
- P21 々
- P22 杉並保育園利用者初年度卒園児保護者 大場将国
- P23 子ども・子育てプラザ和泉一時預かりルーム 施設長 橋本節子
- P24 々
- P25 々
- P26 子ども・子育てプラザ和泉一時預かりルーム 利用者アンケートより
- P27 杉並・あしたの会福祉作業所 施設長 岡部貴夫
- P28 々
- P29 杉並・あしたの会福祉作業所利用者 花香安弘・石原裕一郎
- P30 杉並ゆりかご保育園 看護師 小笠原洋子
- P31 々
- P32 編集後記：編集委員



創立 50 周年記念誌発刊によせて

社会福祉法人虹旗社

理事長 大沼 隆

社会福祉法人虹旗社は本年創立 50 周年を迎えました。

当法人は現在、認可保育園 3 か所、就労継続支援 B 型事業所 1 か所、一時預かり施設 1 か所の 5 施設を運営しております。ここに至るまで紆余曲折の歴史があり、多くの方々のご支援、ご協力のもとで今日に至っております。

つきましては、これを記念して現職にある施設長や保護者及び利用者を代表してその思いや次世代に繋げていきたいことなどを掲載し、今後の参考にと考え祝意を兼ねて小冊子にまとめた次第です。

どうぞご覧いただければ幸いです。

皆様から寄せられたご支援に心から感謝申し上げます。なお、記念誌の内容はホームページにも掲載いたしましたので、どうぞよろしくお願い致します。

2021年3月

「虹旗社」創立50周年 おめでとうございます。

東京西部保健生活協同組合 理事長 吉岡尚志

地域の願いに応え、さまざまな困難を乗り越えて保育や福祉の分野で大きく前進されていることに心より敬意を表します。

その前身は当医療生協の理事や地域のお子さんを保育する活動から出発し、保育園として50年前に虹旗社として出発し、父母の皆さんや地域、行政の要望に応え、保育や障がい者福祉事業等5つの事業所を展開されています。特に近年のめざましい、しかも着実な前進は目を見張るばかりです。

私たち東京西部保健生協も苦難の時を経て、昨年70周年を迎えました。戦後の混乱期から組合員のいのちとくらしを守り、安心して暮らせる杉並、練馬をめざして保健・医療事業を中心にとりくんできました。事業や医療の困難を幾度となく乗り越えてこれたのは、虹旗社の皆さんをはじめ、地域の方々のご指導、ご協力の賜物と存じます。

近年は、貴法人と当生協の協力の機会は多くはありませんが、毎年、「ゆりかご保育園児との交流食事会」は恒例行事として手作りのご馳走と園児のみなさんのお遊戯などでたのしく交流を重ねています。おじいちゃん、おばあちゃんの組合員の皆さんが大変楽しみにしている行事です。

いま、コロナ禍の中、高齢者の孤立や人のつながりの希薄化が言われています。これからも手を携え、協同を強め、一緒に安心のまちづくりに取り組めればと願っています。

社会福祉法人虹旗社理念

2010年10月2日理事会策定

1. 一人ひとりの意思と人格を尊重し、利用者の最善の利益をめざします。
2. すべての役職員は研修と研鑽を積み、人間性と専門性の向上に努め職責を果たします。
3. 地域の中で交流を深め、地域と連携して福祉のネットワークを拡充し、地域福祉の増進に努めます。
4. 「子どもの権利条約」「児童憲章」「障がい者権利条約」等に則り、平和を守りやさしい社会の実現に努めます。
5. 健全で透明性が高く、安定した運営と経営に努めます。

＝社会福祉法人虹旗社運営事業所＝

虹旗社本部

ホームページ URL <https://www.ans.co.jp/u/kohkisha/>

保育・一時預かり事業

1 杉並ゆりかご保育園	杉並区成田東 1-18-8	03-3312-5851
2 のほら保育園	杉並区阿佐谷南 1-14-8	03-5930-3236
3 杉並保育園	杉並区梅里 2-34-22	03-3313-7508
4 子ども・子育てプラザ和泉 一時預かりルーム	杉並区和泉 2-36-14	03-3328-6561

就労継続支援 B 型事業

1 杉並・あしたの会 福祉作業所	杉並区阿佐谷南 3-12-1 栄ビル	03-5397-3636
---------------------	--------------------	--------------

社会福祉法人虹旗社のあゆみ

- 1955年(S30) 杉並中央生協(現東京西部保健生協)無認可保育施設ゆりかご保育所開所。
(青山義男初代理事長就任・定員30名・梅里2丁目)
- 1970年(S45) 認可保育園建設用地(現在地)を杉並中央医療生協が買収、保育園を建設。
社会福祉法人虹旗社設立。同上医療生協財産の土地・建物を法人に寄付。
(建設資金の起債・募集を開始する)
- 1971年(S46) 2月社会福祉法人虹旗社認可。認可杉並ゆりかご保育園成田東に開園。
(鈴木八重子園長就任・定員80名)
- 1991年(H03) 杉並ゆりかご保育園20周年園舎改修工事竣工。
- 1993年(H05) 大沼隆理事長就任・鈴木八重子園長退任・柳澤拓子園長就任。
- 2001年(H13) 11月ゆりかご保育園30周年記念祝賀会・記念誌『ときをつなぐ』発行。
- 2002年(H14) あしたの会福祉作業所事業を社会福祉法人虹旗社に統合。
- 《あしたの会福祉作業所のあゆみ》**
- 1995年「中途障がい者の福祉作業所をつくる会」代表阿部昭作(元東京都議)発足。あ
したの会福祉作業所開所。(星名哲治施設長就任・成田東5丁目畠山ビル)
- 1997年4月第二作業所開設。(菊池幸子施設長就任・定員14名・善福寺3丁目
Gマンション・定員11名)
あしたの会福祉作業所創立2年間のあゆみ『明日をめざして』発行。
- 1999年第三作業所開設。(楠元町子施設長就任・定員16名・天沼1森岡ビル)
- 2004年(H16) あしたの会第四作業所開所。(小畑健治施設長就任・定員10名・久我山3
丁目ラロッサ)
- 2005年(H17) あしたの会福祉作業所『10年のあゆみ』発行。
- 2006年(H18) 杉並ゆりかご保育園園舎改築のため仮園舎、堀之内学園研修棟に移転。
- 2007年(H19) 同新園舎竣工。(定員89名に変更)
- 2008年(H20) 障がい者自立支援法施行により就労継続支援B型「杉並・あしたの会福
祉作業所」に移行。
- 2009年(H21) 「ひととき保育・つどいの広場そら」開設。(堀之内：石田幸子施設長)
- 2011年(H22) 3月のはら分園受託開所。(阿佐ヶ谷南児童館内・永田尋子分園長就任)
・3月11日東日本大震災福島第一原子力発電所放射性物質放出事故。
・8月～11月東日本大震災被災保育園“大槌”“山田”に施設職員派遣。
・11月ゆりかご保育園創立55認可40周年記念祝賀会・記念誌発行。
- 2013年(H25) 障がい者総合支援法施行により「第一作業所・第二作業所」二施設のみ
存続。「第三作業所、第四作業所」廃止。
・7月のはら分園認可保育園に移行。(永田尋子園長就任・定員78名)
- 2014年(H26) 菊池幸子施設長退任・9月岡部貴夫第一、第二施設長就任。
- 2015年(H27) 3月ゆりかご柳澤拓子園長・のはら永田尋子園長退任。
・4月ゆりかご保育園佐々木亜古園長・のはら保育園木澤恵美子園長就任。
- 2016年(H28) 11月「ひととき保育・つどいの広場そら」閉所。
・12月区受託事業「杉並子ども・子育てプラザ和泉一時預かり」開始。
(施設長石田幸子退任・橋本節子就任)
- 2019年(H31) 区立杉並保育園運営受託開所。(仲村きょう子園長就任・定員94名)
・善福寺第二作業所閉鎖、栄ビル第一作業所に統合。(定員変更40名)

杉並ゆりかご保育園

園長 佐々木亜古

杉並ゆりかご保育園は65年前「みんなでつくるみんなの保育園」として誕生し、保護者、職員、地域の運動の中50年無認可保育所から認可保育園になりました。2020年法人認可50年を迎えます。建設にあたり「園債」を発行し地域、OB、保護者と共に皆の力で当地にて開園しました。

「食べること」「遊ぶこと」「手仕事や表現する力を育てる」保育を大事にしてきました。

30数年の経過による園舎の老朽化と保育内容の面から長年職員の願いであった新園舎建設をする事となりました。

建設資金を集めるため杉並公会堂で「虹のコンサート」を開催し、ここでも父母会等の協力を得て2007年4月現在の園舎が完成しました。

園舎建設にあたり「環境」と「保育」の2つのプロジェクトを立ち上げ、ゆりかごの保育の基本を更に発展させる為、社会の現状に照らし合わせどのような保育、園舎にしていくなかで職員で検討しました。

【保育環境】

子どもたちにとって保育園は一日の大半を過ごす「昼のおうち」。ホッと出来る、居心地の良い生活空間にしたいと温かみのある木材をふんだんに使用しました。ホールは核家族が進む社会の中で0才から6才までの子どもたちが、集い、集団遊びやリズム、音と劇に



—ホールでリズム—

遊ぶ会の行事を行う等、多目的使用出来るようにしました。毎日歌やリズムを楽しんでいます。



—みずきに登り—

小さい園庭は土、草、木に触れる生活を大事に、泥んこ遊び、季節感、実のなる木など数年後を見越した環境を検討。春は桜、梅雨時は梅の実、初夏は木登りを楽しむ“みずき”を植えました。今みずきの

木は園舎の2階の高さになり、夏は木陰の下で子どもたちが泥んこ遊びが出来るようになりました。

【保育内容】

食事を作る様子や匂いを身近に感じて食べる事への興味関心を持って欲しいと調理室は子どもの目線の高さにしました。毎日「きょうのごはん、なに？」と聞く声が響きます。歩けるようになった小さな子ども達も調理室を覗き、食への関心が育ってきました。

朝食時間がそれぞれ異なるひとり一人の生活実態を大切に昼食時間は『お腹が空いて食べたい子から食事。遊びたい子は遊びに満足したら食事にする』保育を心がけています。

また「カフェテリア様式」にし、4、5才は個々にあった食事の量を自分で盛り付ける事で、自分の適量を知る事や、食事を通して自然に異年齢が関わる環境となりました。

職員の願いによる新しい園舎が出来た事で、昼食の時間帯に幅ができ、温かい食事は温かいままに食べられるようになりました。

【0才児保育】

50年前、国は“女性よ、家庭に帰れ”と言い、世間では“赤ん坊から保育園に預けるなんてかわいそうに”との風潮の時代の中、地域から認可保育園設立の要求がおこりました。

教育関係、医療関係に努める女性は出産するとこどもを見てくれる人がいない限り退職せざるをえず、商店の場合はこどもをおんぶし段ボールの中に寝かせながらの商売。安心して仕事が続けられ、子どもが安心して過ごせる保育園が欲しいと切実な思いに、当時としては画期的な0才児保育を行う認可保育園として出発しました。

そんな時代、保育現場では“保育園は預かり所ではない。子どもたちの発達を保障する場”と位置づけて親子ともに安心できる場を心がけてきました。

“こども達、ひとり一人の成長を大切にしたい”との現場の願いを元に、保護者と共に訴え、保育条件の改善に取組み職員配置や看護師配置など前進してきました。

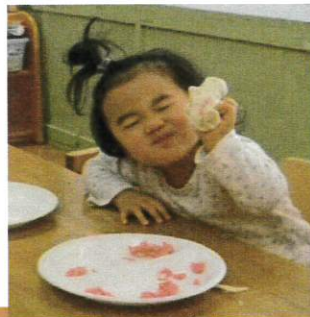
しかし、国の職員配置基準及びこどもの成長に必要な床面積基準等々は世界的に見てもまだ不十分です。

ひとり一人の子ども達の育ちを保障するためにも、今後さらに保育基準の引き上げを国に訴え続けて行く必要があります。

《離乳食・おいしいね！》

“じぶんで！”最初は「手づかみ食べ」から始めます。

指先が使えるようになるとスプーンを握って食べれるようになって行きます。



《興味・関心》

伝い歩きがはじまると視野が広がり、色々な物に興味関心を持つようになります。興味関心は体験学習の始まり。大事に育てます。

「お水、じゃ～じゃ～だね」「おもしろいね。気持ちいいね」

《ふれあいあそび》

0才時期の愛着関係は、それから先の成長に大きく関わってきます。

たっぷり抱っこをするなど触れ合う時間を持ち、1対1の関係を大事にしています。



《夏の水との出会い》

お友達と水遊び。ひとり1人タライで感染症防止。

【調理活動】

小学校に行くようになると、留守番する事もあります。おとうさん、おかあさんの帰りが遅くなり、お腹が空いたら自分でつくって食べる力をつけて欲しい、それがゆりかごの調理活動のはじまりです。「食育」と言う言葉が出てくる以前からずっと大事にしてきました。

《いちごジャムつくったよ 2才児》

両手でしっかり持って、トントン砕いてイチゴをつぶす“おいしいね”



すり鉢を持つ子、ごま・えび・青のりなどをすりこぎでつぶす子。友だちと協力してふりかけづくり。



=道具を使ってふりかけづくり=



《卵シリーズ 3才児》

=生卵の殻わり=

両手、指の機能が発達する3才。両手を使って力の入れ具合を加減しながら割っていきます。



=ゆで卵のかわむき=
卵を片手で持ち、親指を使ってむく作業に集中、丁寧に。



=ホットケーキづくり=
フライ返しでひっくり返すのは、ちょっと苦勞する課題です

《粉シリーズ 4才児》

=小麦粉を振う=

竹パン・うどんづくりに向けた第1歩。水平に振るうのは中々難しい作業



=米をとぐ=

《畑を耕し、育てて調理して 5才児》

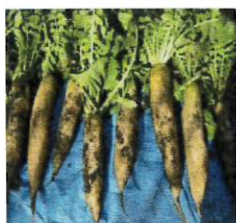
春夏 ジャガイモやさつまいも 鍬やスコップを使って耕して種芋を植えます。草取りも大事。



=薪でご飯を炊く=



今では馴染みのないお釜に薪でご飯を炊く体験。“はじめちよろちよろ、なか パツパ。赤子泣いても蓋とるな”



=ゆりかご名物沢庵づけ=

沢山収穫した時は、干してたくわん漬けで頂きます。

=調理して=

猫の手“ひっかくぞ！”抑えた手と包丁は仲良し。大根はおでんやみそ汁にさせていただきます。

【みて・ふれて・たしかめて 絵とことばのスケッチ】

自然の中で風を感じ、太陽の温かさや光の眩しさを感じる。水・土・草・木などに、直接触れることで、子どもたちの心と体が育っていきます。実際の体験や感動が、子どもたちの感じる力、考える力を広げていきます。調理活動も戸外遊びも、手仕事も、五感を使って感じることも、全ての遊びが生きていく力に繋がっています。

実際の体験から発せられる子どもたちの「つぶやき」から保育を作りたい、そんな保育を私たちは目指して行きます。



「あかいの。あかいの」
「ぼくがつくったとまと」
「あまかった」
「これ、とまとだよ」

プランターで初めて育てたトマトを収穫。苦手だったトマト。友だちと食べた後に絵を描きながら話してくれました。

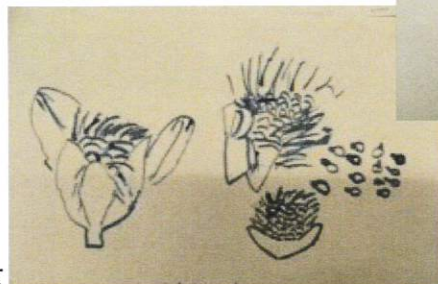
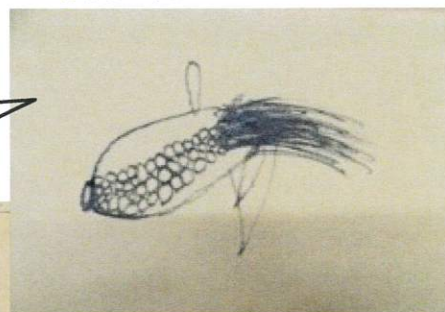
= 3才児 =

= 5才児 割りばしペンで描く =

= 5才クラスが畑で作ったとうもろこし =



「とうもろこしのひげが
もじゃもじゃしてた」



「ちっちゃくてかわいい」
「はがぬけたみたい！」

新型コロナウイルスの感染拡大で畑に行く事も出来ず、「はぬけ」

の小さなとうもろこしでした。それでも大喜びの子どもたちの絵とことばのスケッチ。

【これからの保育園】

2020年、新型コロナウイルス感染症が世界的に広がり、国内でも感染者が増大する中で4月緊急事態宣言が発令、保育園も休園となりました。

保育園職員は交代勤務、出勤しない職員は在宅勤務となりました。保育園のこれまでの日常が取り戻されることなく、保育園生活を送れるようになったのは6月でした。

入園式はじめ卒園式、バザー、平和のための納涼のつどい等、ゆりかご保育園が大切にしてきた行事は出来なくなりました。

何よりも、子ども達の“昼のおうち” 園生活は、歌う事、食事の仕方、調理活動や見学の日、合宿などの保育活動に規制がされて今も続いています。

保育園では感染対策に追われ、検温の徹底や除菌清掃、定期的な部屋の換気などの雑務が多くなり、職員の精神的負担は日々増えています。子ども達の現状を出し合い、保育内容を話し合ってきた職員会議含め、それぞれの会議も今まで通りできなくなりました。

先の見えない中で子ども達の育ちを守るには何が出来るかどうしたら出来るか、模索が続いています。ゆりかごが大事にしてきた事が形をかえても根本が次に繋がっていく事を願います。いつまでも「みんなで作る みんなの保育園」であってほしいと思います。

どんな子どもも大人も、 あたたかなまなざしで育んでくれる居場所

2013年度 父母会会長 牟田暁子

わが家がゆりかごに通ったのは2004年4月から2015年3月まで。息子は高校2年生、娘は特別支援学校6年生となりました。

私がゆりかごを知ったのは40年近く前の小学校1年生の時。賑やかなバザーに行って楽しく買い物をした記憶があります。区立保育園出身の私は「こんな楽しそうな保育園に通えたらよかったのに！」と強く思った事を覚えています。地元の公園で行われてた文化祭のような催しも思い出に残っています。それもゆりかご保護者OBによるものだとなんて知りました。「ゆりかごに通いたかった」その夢をせめて親として叶えたいと(笑)わが子を授かった時、心に決めたのを思い出します。単に子どもを日中みてる場所、という存在を越えて。親とともに子どもを育み、更には子どもを育む地域まで一緒につくっていかうとする場所——それが私の中にある、ゆりかごの姿です。

約10年前から、ゆりかごの親仲間を中心に立ち上げた団体で「和田堀プレーパーク」を開催しています。ゆりかごの父母会活動、そしてプレーパークを通して、生涯の友を得る事ができました。そしてまた、地域の仲間とともに、地元で大人も子どもも集える場をつくれているのは、ゆりかごに通った10年があるからこそだと思っています。

もうひとつ。娘には重度障害があります。障害がわかった時「ゆりかごに通えなくなるのかな」ととても心細くなりました。そんな私に柳澤園長が「私たちは特別支援の専門家ではないけれど親御さんと一緒に育てたい」と迷いなく言ってくれた事がどんなに心の支えになったでしょう。

これからも変わらずどんな子どもにもあたたかなまなざしを注ぎ育んでくれる場であり続けてほしい。親たちを、地域のつながりをも育む場であり続けてほしいと願っています。



変らないことの大切さ

2017年度～2019年度父母会長 小倉博美

この度は 社会福祉法人虹旗社創立50周年おめでとうございます。ゆりかご保育園へは長女が2014年度に入園し「共育て」の仲間入りをさせて頂きました。一人ひとりに細やかでしかしおおらか、思いやりのある保育に感激し、次女の2017年度入園をきっかけに何か携わりたく、父母の会会長に就任3年間務めさせて頂きました。虹旗社の長い歴史の中においてはほんのわずかな期間ではありましたが、諸先輩方や経験豊富な先生方と一緒に歴史ある会を運営させて頂いた事は、非常に貴重な経験、ありがとうございました。

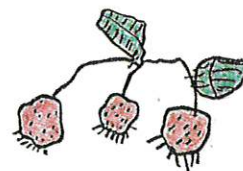
50年前(実際には存じません)三種の神器、白黒テレビ・洗濯機・冷蔵庫がスマートフォンと全自動家電へと加速度的に進化していったこの時代の流れ。デジタル化は進み便利になりすぎた代償として時間の観念は変わり、何だか忙しくなりすぎてしまった気がします。

人は自然物であるが故、その関わりや成長には相応の手間と時間がかかるものだと。しかしその煩わしさを惜しまずゆっくり手間暇かけて見えた正しいことを継続し、そして未来につないでいく信念に、福祉と平和の本質が見えたような気がしました。

今後も50年間の良い“アナログ”な伝統を守り活かしながら、福祉業界そしてその先にある平和な世界の実現に向けて牽引していく姿を陰ながら応援させて頂きつつ、今後の更なるご多幸とご発展を心よりお祈り申し上げます。



のほら保育園



園長 木澤恵美子

2011年4月、のほら保育園は杉並ゆりかご保育園の分園として開所し、2013年7月、杉並区の待機児解消プランの一環で定員数が増え認可保育所となりました。のほら保育園も開所して10年が経ち『ビルの中の保育園』として保育実践を重ねています。

のほら分園からのほら保育園に

定員が58名から78名へと増え、保育室は1階と3階の2つのフロアーになりました。1階は4才、5才、3階は1才から3才の保育室。移動は一度靴を履き玄関を出て、エレベーターや階段を使います。調理室も3階にあるため毎日ワゴンで1階へ。保育園としてはちょっと不便で今まで自由に子どもが行き来し活発だった異年齢交流も同じようには出来ない環境です。また、家庭的な雰囲気을大事にしていたのほら分園。保育園になっても「大事にしたい事は変わらない」と分園開始の立ち上げの思いを職員と確認し合い繋げてきました。

昼間のお家“のほら”

家庭のようにほっとくつろげて、安心して生活が出来る場、クラスの垣根を越えた異年齢の交流、マイ茶碗、マイ湯呑と“自分だけのもの”を園生活に取り入れるなど、子どもたちにとって『ひるまのお家』をイメージし、大事にしてきました。

職員は先生ではなく、生活を共にしている仲間として時にはお父さん、お母さんとなり子どもたちを受け止め、兄弟のように一緒に遊んでいます。その中で共に学び育ち合っていく関係だと思っています。家庭ならではの『わがまま』も子どもたちが言える、そして受け止めてくれる大人や仲間がいる、そんな保育園でありたいと思っています。

子どもは自然の中で学び、育つ

『天気がいい日は戸外へ』と午前中の活動は散歩が中心です。歩き始めの1才児、自分の足で歩くのが楽しくてどんどん歩きます。子どもが探索しながら自由に歩く事の出来る場所をホームベースにしています。「みてみて、これなんだろ」「さわってみて」「どんなにおい？」どの年齢も戸外での探索はとても大事です。自然の中であそび、季節を感じ五感をフルに使って日々新しい発見、出会いをしています。

のほら保育園の3階では小さいけれどプールが設置され、2才児12人が充分にあそべるテラスがあります。そこには築山もあり、暖かい時期には土のどろんこあそびが盛んです。土も自然の中の一つ、つめたい、かたい、水を含むとやわらかい、どろどろべちゃべちゃ、

触れることで感じ、形を作って想像します。「きょうはテラスでどろんこするよ～」と声をかけると「やった！」と子どもたちは大喜びです。思いきりあそぶことでこころの開放とあそびが無限に拡がって行くのが魅力のどろんこあそび。のほらには「どろんこにんげん」がいっぱいです。

保育を伝え保護者と共に

子どもたちの育ちは保育園だけでなく保護者との連携がとても大切です。保育活動や行事を行うにも保護者の方の協力が必要です。保育園からのお願いや協力は、保育活動への理解、保護者との信頼関係により成り立っているため、保育を伝えることを大切にしています。

園日より、だいどころだよりを通して全家庭に向けて園の生活や食に関する子どもたちの様子、情報を発信しています。乳児クラスでは、クラスの保護者に向けて通信や個々の連絡帳を通して子どもの様子、成長を伝えています。幼児クラスでは写真と文章で毎日の保育を『張り出し日誌』としてクラスに掲示しています。その中で子どもの光った姿や成長が感じられた場面、大事にしている事など保育士の視点で伝えています。保育を伝えるには様々な方法がありますがその一つとして職員の中でも定着してきています。

ビルの中の保育園から

「こんなところに保育園があったんですね」と2階が児童館と言うこともあり、子どもたちが出入りしていても保育園があるとは気づかない方も多いようです。認可保育園になってからは地域の子育支援にも力を入れ、今では子育てイベントの保育所体験、手作りアロマ、大きくなったね（計測）などに地域の親子が大勢遊びに来るようになりました。

ビルの中の保育園で何が出来るのか？と職員と試行錯誤した10年。虹旗社の理念をもとに、のほら保育園の特徴を加えながら保育してきました。そんなのほら保育園も2024年3月末をもってこの場所（阿佐谷南地域）での開所は終わり、新しい地域（未定）で開所することになります。また環境が異なりますが、この場所で学んだことを糧に職員一同、より良い保育を目指していきたいと思います。



外観



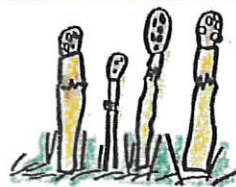
1階入り口

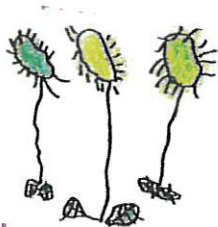


3階入り口



3階テラス





心配する気持ち

6月29日(月) ねこじゃらし組

今日にはしはら公園に行く予定でしたが、テラスで栽培しているきゅうり・小玉スイカ・ひみつの苗の観察に夢中になっていたため、興味のある時にじっくり見てほしいと思い、テラスでの時間をたっぷり取りました。

ひみつの苗の葉っぱが虫に食べられているのを見つけると「えー!?」「どこ!?」と大騒ぎ。「たべられているのはっぱだけ?」「はっぱは たべられても だいじょうぶ?」と心配そうに見る姿から、苗を楽しみに思っていることが伝わりました。

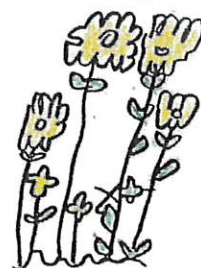
「あー!この むし じゃない!?」と葉っぱを食べたと思われる虫を発見。ハナムグリでした。「おいしいのかな〜」「おなか いっぱい たべられたかな?」「まだ こっちにも あるよ〜」と先程までは苗の心配をしていた子どもたちが、今度はハナムグリを心配しています。葉っぱを食べられてしまったことを怒るのではなく、ハナムグリの気持ちになって考えていたことが面白いと思いました。

きゅうりが1本大きくなっているため、楽しみにしていたゆかり味にして明日食べます!



園を出発し、遊歩道では「かくれんぼ しま〜」とりこさん。その声を聞き、すぐにみんな集まりました。ねこじゃらし組では、初めてのかくれんぼです。木の周りに集まると、顔を隠すようにして並び、「いーち にー さーん」と数を数えます。「もう いいかーい?」と言うと耳を澄ませ、大人や友だちの「もう いいよー」が聞こえるとわくわくした笑顔で走り出します。「みーつけた!」とみんなて隠れていた人をタッチ。このやりとりが楽しく、何度もくり返し遊んでいました。

今は“見つける”“タッチする”“友だちと一緒に”が楽しい子どもたちなので、鬼役が大勢いるのが3才児らしいですね。これからルールのある遊びがさらに楽しくなってくると思うので、かくれんぼ以外の遊びも活動にも取り入れていきたいと思います。



なんのかたち？

4才児

8月20日(木)しゅつめくさ組

今日は、片桐さんが川で拾って来てくれた石に筆を使って色塗りをしました。色塗りを始める前に、石がどんな形をしているか、何に見えるかをじっくりと観察します。1つの石で「バナナ・帽子・スイカ・船・ポケット」と色々な物があがって来て、子ども達の想像力に驚きました。好きな石を選び、さっそく色塗りを始めます。



今までは1つの筆に1色、と色ごとに筆を変えていましたが、今日は1人1本筆を選び、違う色を使う時はバケツの水で筆を洗ってから使うように伝えました。初めは、今までの名残で洗わずにそのまま違う色を使い色が混ざってしまう場面もありましたが、繰り返し伝えることで「洗ってから次の色」が分かるようになって

います。使い終わったパレットの色が混ざらず、綺麗に残っているのを見て筆や絵具の使い方が上手になったなと感心しました。

こうやって
あらうんだよ



細かい模様や絵を表現できるように、細い筆を準備しました。きこさんは表面にネコ(ネコ)の形をしていただけからそうです、裏面には花火と夜空、そして花火が落ちていく海を描いていました。ちひろくんは石の形をよく観察し「きういにみえる！」と閃きます。黄色や緑、水色を混ぜてキウイの色を作り出し、裏側まで丁寧に塗っていました。指先が器用になり、表現できるものの幅が広がってきましたね。



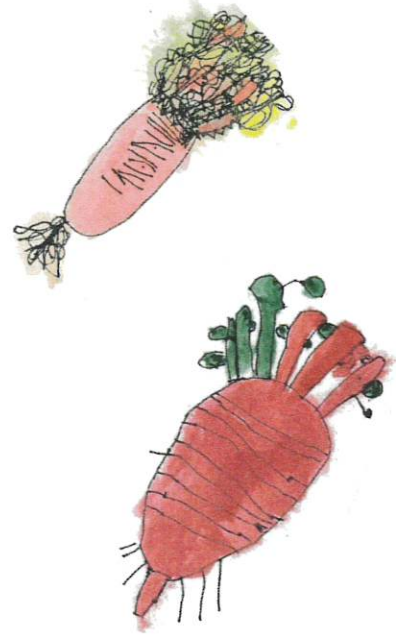
等身大の自分



5才児

サラダだいこん

5才児



5才児

どろんけんけん登場！

たんぽぽ組 2020.6.4(木)

休園中は思い切り外で遊ぶことが難しかったことと思います。今日は天気も長く曇るので久しぶりに気持ちを開放してどろんこあそびをしました。昨日から子ども達だけでなく担任も楽しみにしていて「はやく どろんこ やりたいね～」と話していました。

テラスに出ると早速どろんこの中へ…、とはならず少し様子を見ています。誘いますが「え～」と言いつつどろんこの中に入ると遊ぶ子ども達。好きじゃなかったかな？と思いましたが、担任がどろんこの中に入ると「わたしも～」とついてくるなぎささん、まいさん。「きもち～」「にゆるにゆるする～」と楽しそうにしている

と他の子どもも次々入って行きました。はじめは静かに遊んでいましたが、次第にダイナミックになっていき、あつという間に全身どろんだらけのどろんけんけんに変身。山から滑り降りたり、中には泥の池に寝転がったり全身でどろんこの感触を楽しみます。水と土は気持ちを開放させますね。

担任もスコップを持って来て泥の山に川を作っているとはるかくん、りょうたくん、ゆいさん、けんたくんも集まって来て、みんなで川作り。完成して水を流すと「やった～」と歓声が上がり、船を進めたりトンネルを作ったり工夫をして楽しみました。



保育園で体は洗っていますが、泥が残っている場合もあります。お家に帰ったらお風呂に入って洗ってください。

のはら保育園への想い

のはらを育む会 石原 大地

社会福祉法人虹旗社様、この度は創立50周年おめでとうございます。

我が家は、のはら保育園が「ゆりかご保育園のはら分園」だった頃よりお世話になっております。長男の天斗が、のはら保育園で最初のつくし組さんとして入園してから、早いもので10年が過ぎました。毎朝の送りのとき、顔をまるで茹でダコのように真っ赤にして泣き叫んでいた長男の姿が、昨日の事のように思い出されます。

我が家の子育ては、のはら保育園と共にあったといっても過言ではありません。というか、次女的美蘭が今も在籍しているので、現在進行形でお世話になり続けています。その次女も、残すところあと2年で卒園。いよいよ我が子全員がのはらから卒園してしまうかと思うと、何とも寂しく、名残惜しい。

なので、妻に第4子について打診したところ、あえなく却下されました。まだまだいけると思うのに、誠に残念です。

のはら保育園の魅力は、何といってもその温かさにあります。まるで親戚の家に預けているような、あたたかい温もり。人生初の大冒険である御嶽合宿などの行事や、毎日みんなで食べる食事の、全てが手作り。ここまでしてくれるのか、という先生方のお気遣い。卒園した長男と長女が、今でものはらを大切にし、園のイベントがある度に参加したがつていることから、それは窺い知ることができます。

次女が生まれ、私たち夫婦が1年間の育児休業をとった際は、杉並区の規則によって長女的美翔が退園処分となりました。育休を終えた1年後、園へ復帰したとき「おかえりなさい」と温かく迎え入れてくださった皆さんと、久しぶりにお友達のところへ戻れて喜んでいた長女の顔が今でも忘れられません。私たち夫婦も無事に仕事に戻ることができて、感謝の気持ちでいっぱいです。

どうか、これからも多くの子ども達にとって、温かい家庭のような場所であり続けて下さい。我が家はこれからも虹旗社様とのはら保育園を応援してまいります。



おめでとう!! 社会福祉法人虹旗社創立五十年

「のはら」の入園で知った 素晴らしい園児教育



のはらを育む会保護者代理 母方祖父 小林淑夫

私は、**のはら分園**開園時につくし組とねこじゃらし組に孫二人をお世話頂きました、保護者代理で母方祖父の小林淑夫と申します。**虹旗社創立五十周年**おめでとうございます。

東日本大震災の年に開園したゆりかご保育園**のはら分園**の開設により、待機児童政策では都内で比較的緩やかな他区に住まう娘夫婦家族を激戦区の杉並に呼び寄せた事で、私の退職後の生活に大きな変化をもたらしました。

保育園入園申し込みに必要な要件を満たすため、複数の無認可の託児所やスポーツクラブ併設の保育施設通いが日課となりました。

おかげで新設の**のはら分園**に無事お世話になることが出来ましたが、入園式の席上で分園長の永田先生から「…のはら分園は単なる託児所ではありません…」のお話で、園送り迎え以外の空いた時間は「天下晴れての退職人生」と喜んだ私には、青天の霹靂でした。素晴らしい「のはら保育園」の保育教育一週間も待たず、危惧は一掃されました。門扉や園庭の無い借り物園舎を逆手に取ったのはらの園児教育は、素人目にとっても素晴らしいものに思え、いつまでも続けて欲しいとの願いから、私なりの表現で紹介してみます。

最初に「**園児の体を作る体育**」があり、分園から**ゆりかご本園**を經由した善福寺川緑地公園までのお散歩では、実によく歩きました。第二にお散歩の行き帰りでの「**草花や虫、魚の観察採集などの知育**」があり、園に帰ってからも観察・飼育が続きました。次に朝晩の挨拶やお散歩時に「**他人と共に行動する力を学ぶ共育**」があり、手を繋ぎ道路の歩き方も学びました。続く「**食育**」では給食時の食作法などを学び、食後の午睡では保護者準備の寝具で「**寝る子は育つ睡育**」も学びました。

数より質の保育、病児保育の充実を送り迎えをしていた折、病育は西荻窪と教わりました。今でも前日予約は同じですか？病気は待ってくれません。生協診療所を含む虹旗社内では是非とも検討課題として俎上に!!





すざなり
ほいくけん

園長 仲村きょう子

2019年4月1日

杉並区立杉並保育園を受託し社会福祉法人虹旗社杉並保育園が開園しました。区立杉並保育園は、杉並の公立保育園の中でも一番歴史のある保育園です。その名前を引き継ぐことは身の引き締まる思いでした。一番大切にしたことは、職員が変わっても遊びの中で子どもたちと仲良くなり安心してひとり一人が自分の思いを出せること。共感しながら子どもの思いを受け止め「あしたまた遊ぼうね」と楽しみにできること。子どもたちが慣れ親しんだ環境を変えることなく、園名やクラス名はそのまま残すことに決めました。

虹旗社の保育の基本は生活にあります。「じぶんで」の思いを大切に子どものやってみようを見守り、できなくてもやってみようとする気持ちを大事にしています。

毎日の「リズム」「うた」は生活に溶け込み子どもたちの大好きな活動になりました。大きい子の模倣から憧れに、荒馬も加わり『杉並保育園の文化』として位置づいてきています。散歩を通して自然から学び仲間との関係が出来てきています。園庭から梅里中央公園に続く恵まれた立地のおかげで外遊びが充実し、いつも元気な子どもの声が響き渡っています。



2歳 『みのむし』



5歳 『チョコばなな』



3歳 『おばけ』



1歳 『とんぼ』



4歳 『いちごのケーキ』

杉並保育園の1年



杉並保育園の4本柱 ～保育の中で大切にしていること～

散歩

天気の良い日には散歩に出かけ、自然の中での探索を存分に楽しんでいる子どもたち。見て・触れて・確かめる経験を大事にしています。

また、探索を楽しみながら、色々な地形を使って、足腰の力、バランス感覚、歩く力を育て、丈夫な身体へと育みます。自然との出会いは豊かな心を育み、共にいる友だちとの関わりも豊かにしてくれます。



リズム

毎朝のリズムは子どもたちの大好きな活動の1つです。リズムは音楽を耳で聞き、それに合わせて体を動かします。いつも体に力を入れるばかりでなく脱力できる事が大切です。小さい子たちは大きい子の動きに憧れを持ち真似っこからリズムの楽しさに触れていきます。しなやかな体の発達を促すと共に、一人から二人、仲間へと呼吸を合わせ一緒に楽しむことを大切にしています。

かめ



1歳児

カエル



5歳児

とんぼ



5歳児



1歳児



4歳児



3歳児

スキップ



食育

~充分身体を動かし、
空腹と満腹のリズムがわかる子ども~
~食べることを楽しむ子ども~



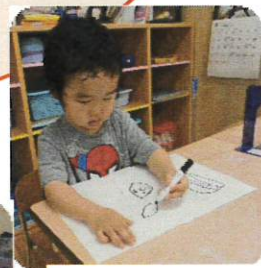
旬の食材を取り入れ、
食事の大切さを伝えて
います。小さい子は野菜
ちぎりのお手伝いをしたり、
大きい子は栽培し、
育てたものを自分たちで調理して、
味わう機会を多く持っています。



絵とことばのスケッチ

~描くことは話すこと~

子どもが自由に表現して、描くことを
楽しみ、描きたい時に描ける環境を
大事にしています。
子どもたちの絵には、その子の思いが
溢れています。
そんな思いを引き出し、書きとめるた
めに、大人と対話しながら描く時間
を作っています。描くことで思いが
出せる大切な時間です。

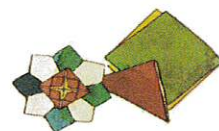


4本柱を土台に・・・

保育士やクラスの友だち、異年
齢の友だちと関わり合いながら
共に生活していく中で、自分で考
えて出来ること、仲間と協力すれ
ば出来ることを知り、自分たちで
工夫し、解決する力、生活して行
く力を育てるため、小さい頃からの
自分で！を大事に保育しています。



「楽しい未来が待っているよ」



令和元年度 卒園児保護者

大場 将国

この度は社会福祉法人虹旗社創立 50 周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。半世紀にわたり子どもたちが健やかに育ち、巣立つことができたのも、一重に先生方の愛情の賜物であり、心より感謝申し上げます。

子どもたちに「楽しい未来が待っているよ」と言えるか——。ふとした時に上る家族の話題です。社会が目まぐるしく変化する中、大人が自分の生活に子どもを合わせさせてしまうことが少なくありません。毎日呪文のように同じことを言い、ちょっとしたことで怒り、少しずつ子どもの棘を抜いてしまう。寛容さがなくなった社会で、どうしてこの子どもたちが楽しい未来を描けるのだろうかと難しいことを考えながら、結局は子育てと仕事の両立という現実で悲鳴を上げているのだと思います。

そのような状況で「子どものためには何が大事か」を常に考え、同時に私たち親に寄り添い、工夫して子どもの成長を手助けしてくださった保育園にどれほど救われたかわかりません。目一杯遊んだことがわかる汚れて服を見て、伸び伸びと遊んでいることが嬉しくなりました。親子一緒に取り組むパン作りからは同じ体験を通じて親子が共感する機会が生まれ、運動会ではリズムや荒馬などを通じて一人一人の成長が大事にされていることが感じられました。そして卒園した今でも、保育園の散歩道を通るたびに当時の思い出を話してくれる子どもを見て、先生方のように大人が時間をかけてしっかりと子どもに向き合えば、子どもは自らの力で楽しい未来を創っていけるということを教えていただきました。

これからまた新たな 1 年が始まります。子どもたちが育つ場としては毎年の出来事であり、子どもたちにとっては初めてばかりの 1 年でもあります。変わらないことの安心感、変わることへの期待感、どちらも大切にしながら、これからも子、親、地域とともに歩んでいってほしいと願っております。



子ども子育てプラザ和泉一時預かり事業

施設長 橋本節子

2008年にゆりかご保育園の仮園舎として使用させて頂いた（立正短期大学よりお借りした）堀ノ内に、杉並区より委託を受けてひととき保育とつどいの広場「そら」を開始しました。両事業とも大変好評で地域のみなさんから頼りにして頂けるようになりました。しかし、大学等の諸事情で継続が困難になり残念ながら2016年の6月末で「そら」を閉めることになりました。

杉並区がこどもや保護者が気軽に立ち寄れてほっとできる場所として、和泉児童館を改装して新たに子ども子育てプラザ第1号として2016年12月に開設。

乳幼児を預かる事業を虹旗社が杉並区より委託を受けて12月12日より「一時預かり」を開始しました。

私達は名称が「一時預かり」で荷物の預かりのようで、「一時預かり保育」にして欲しいと区にお願いをしましたが、他のひととき保育とプラザの事業を区別したいので「保育」という言葉は使用できませんでした。名前にこだわるより「そら」から引き継いだ保育の質を大事にしました。



子ども子育てプラザ和泉

一時預かり事業とは

・保護者が仕事や通院、幼稚園や学校の行事、冠婚葬祭などの用事やリフレッシュしたいときに、一時的にお子さんをお預かりし保育する事業です。

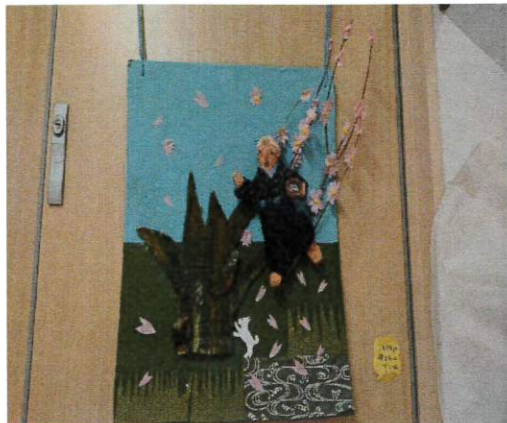
- ① お預かりできるのは区内在住の生後6ヶ月から小学校就学前の健康で集団生活が可能な乳幼児です。
- ② 利用は1時間単位となります。
 - ・平日9時から17時まで ・土曜日～9時から16時まで
 - ・休みは、日曜、祝日
- 12月29日から翌年の1月3日迄、施設の休館日。
- ③ 利用は1時間当800円（ゆりかご券、子育て応援券使用可）
- ④ 利用するには事前に利用登録が必要。登録の面談は予約制。（日々2組実施。面談をして登録番号が付与され予約出来ます）
- ⑤ 予約は1ヶ月前から受け付けます



「お月見」

保育室入口タペストリー（職員作）

一時預かりの実際



保育室入り口のタペストリー(職員作)

①和泉地域には一時預かりの施設がなかったので多くの方が登録しています。

初年度 28年12月だけで546人、29年度は504人、30年度は327人、31年及び元年度は306人、2年は10月末203人。延べ登録人数約1900人です。

令和2年はコロナで登録中止時期もありましたが8月末から登録予約者が増加。平均すると毎月30人前後の登録。予約する希望者も毎日のようにありますが登録して1回も利用のない方も残念ながらいます。

- ②1日に預かる人数は10人(同じ時間帯に10人まで可能)。1日延べで13人にしていますが、面接時に丁寧に説明をしているので、利用者からの苦情はありません。
- ③年齢は就学前までなので幼稚園が夏休み等、休みになると幼児が多く通常は乳児が多くなかでも毎年秋から0歳児の希望が多くなります(育休中の6か月児)0歳児は1対1の対応で保育をしています。0歳児が多くなると他の年令のこどもの保育にしわよせがいくので登録時の面接で説明をして利用者の了解の元1日3人にしています。
0歳児の希望が多く同じ時間帯にだぶらなければ延べ13人の範囲で受け入れます。
年間通して1歳児が一番多く、次に2歳児、0歳児が多く利用して頂いています。
- ④預ける用件は～仕事、通院、リフレッシュ、学校・幼稚園行事、家事等あります。今年はコロナの関係で行事は縮小。仕事、通院、リフレッシュ、講習講座が多いです。今まで幼稚園の行事に弟・妹を連れて参加していたが、一時預かりを利用して親もゆつたりと行事に参加できて喜ばれています。
- ⑤預かる時間は1時間から8時間と様々です。7時間、8時間の方もいますが、4時間、5時間、6時間が多いです。土曜日は人気で平日に比べて一番先に予約が満員になります。

“そら”から引き継いで、大切にしていること

- ①一時保育の特徴ですが一期一会の付き合い。初回のこどもは大好きな母親と離れる不安で大泣きをします。私たちは泣いて当たり前と思って保育をします。
受け入れ時にこどもの好きなおもちゃを保護者から聞いて準備をして保育をします。泣いていたこどもも好きなおもちゃがあったり、友だちがいたりして泣き止んで遊び始めます。どんなに泣いていても保護者が迎えに来た時には、泣かないで遊べるように心がけています。泣いているこどもを預けて保護者も不安ですが、迎え時に楽しく遊んでいる姿を見て安心してくれます。その安心感が次への利用に繋がります。
- ②保育は担当制をとっています。担当を決める時には、乳児等は以前担当したことのある職員が担当するよう配慮。職員もこどもの事が分かっているのでこどもも安心。保護者もこどもが慣れているので安心です。

③こどもが楽しく過ごせる様、室内遊具を工夫して職員の手作り遊具も豊富です。また天気の良い日はこども達の大好きな散歩に出かけ色々な経験ができるように工夫して親子に喜ばれています。

④職員それぞれ得意な事を生かし積極的に仕事を担当。遊具、絵本、環境整備、検便、園芸を担当します。

- ・遊具係＝玩具の点検や年齢に合ったものを購入し季節に応じて玩具を入れ替えて、こどもにとって魅力的な遊ぶ環境を整えています。
- ・絵本の係＝各年齢にあった絵本を準備する。季節によっても絵本を入れ替える。日々こどもが絵本に興味を持てる様にどんな絵本か分かるように並べる事も一工夫。
- ・環境整備は入口に季節のタペストリーを飾る、受け渡し室に季節の花々を飾る等担当。
- ・園芸＝今年はコロナの関係で夏の水遊びを縮小。空いたスペースにプランターでオクラを育てスタンプ遊び、朝顔の花で色水遊び。こどもたちは大喜びでした。



子ども達と育てたオクラ



子ども達と育てたアサガオ



季節の花々

③ 毎日違う職員同士で仕事をしているので職員間のコミュニケーションは大切。昨年までは月1回全体で夜の会議を行い色々な問題を話し合い確認して仕事を行って来ました。今年度コロナ対応で全体会議は行えず、10月より2回に分け少人数で行っています。年度末は全体で実施して今年度の反省から次年度がスムーズに仕事ができるようにしていきます。

④ 登録の面談に面談室を借りています。プラザの行事要請でお茶会、杉並ゆりかご保育園の看護師による「アロマの虫よけスプレー作り」、人形劇など実施し、協力してきました。残念ながら2年度はコロナの関係ですべて中止になりました。

コロナと共存！これから

・2年12月で一時預かりを開始して丸4年。当初は「そら」のメンバーが中心でした。29年の12月末で前任責任者が退職、職員が入れ替わりましたが、その後も経験豊かな職員に恵まれ利用者や区から高い評価を受けました。

コロナが終息し以前のように利用者が戻るのか不透明ですが、何年もかかることと思います。コロナと共存して色々な活動を前向きに行い、こどもや保護者から信頼していただき、こどもが楽しく過ごせる遊具や遊ぶ環境を豊かにしていきたいと思ひます。

利用者アンケートより(区実施)

(令和元年度一時預かり事業利用者アンケート：実施期間 R2年2月)

1 期間中利用者人数 116人中回収枚数 49枚(回収率 42.4%)

2 保護者の年代⇒20代1人・30代34人・40代14人

3 職業⇒専業主婦21人・パート等4人・育児休業中13人・自由業・自営等3人
会社員 or 公務員7人

4 こどもの年齢⇒0歳3人・1歳17人・2歳～18人・3歳4人・4歳9人・5,6歳4人

5 和泉の一時預かりの対応について

① 和泉の一時預かりを選んだ理由(複数回答可)

・自宅に近い41人・目的地に近い3人・スタッフの対応が良い21人・子どもが好き15人

② 利用頻度について

・初めて9人・数か月に1回26人・毎月9人・月2回以上8人

③ 登録時のスタッフの対応、説明の分かりやすさ

・とても良い39人・良い8人・普通1人

④ 予約時のスタッフの対応

・とても良い49人・良い5人

⑤ 預かり当日のスタッフの対応について

・とても良い42人・良い6人

6 和泉の一時預かりに対する満足度(複数回答可)

① 保護者の方は利用してどのように感じられましたか(複数回答可)

・リフレッシュできた36人・仕事のできた15人・通院できた19人・育児負担軽減14人

・自分の時間が持てた27人・また利用したい22人・報告があり安心できた24人

・体が休まった8人・配慮があり安心できた15人

② 利用後のおこさんの様子はいかがでしたか(複数回答可)

・楽しそう36人・保護者と離れる事に慣れた18人

・スタッフに慣れリラックスしていた24人

利用者の声・寄せられたコメント

◎「スタッフの対応が丁寧」と担当制にしている事でこどもが安心して過ごせる。

◎「たのしかった！」お迎え時の表情や言葉に満足。大変良い。

◎「こどもが慣れて毎回楽しみにしています」

◎「先生方に良く見てもらって安心です」

◎「お散歩やホールで沢山からだを動かす遊びをして頂き助かります」

◎利用者アンケートと共に子育て支援課からもほぼ満点の大変良い評価を頂きました。

杉並・あしたの会福祉作業所

施設長 岡部 貴夫

杉並・あしたの会福祉作業所は、1994年8月人生半ばで事故や病気により障がいを持った方々が通所する施設を設立に向けて発起人会を立ち上げ、翌1995年4月「あしたの会中途障がい者の第1福祉作業所」として成田東に開設しスタートしました。利用者も増えてきたことや利用者の方が近場で利用できるよとの事から1997年に第2福祉作業所、1999年に第3福祉作業所を設立。3年後の2002年10月に「社会福祉法人虹旗社」に合流、法人事業の出発。

その後2003年には第1作業所が現在の阿佐谷南に移転、2004年には第4福祉作業所を開設し、利用者の方が地域の中で利用できるような形となりましたが、2009年、障害者自立支援法による「就労継続支援B型」定員60人、2施設の事業所として「杉並・あしたの会福祉作業所」は再スタートしました。

しかし障害者を取り巻く環境やニーズの変化などもあり2019年定員を40人に変更し現在、阿佐谷南の1施設で事業を続けています。

活動内容は設立当初より変わることなく受託作業（企業より依頼されたダイレクトメールのチラシ封入封緘、シール貼り等）と自主製品の制作販売を行っています。また利用者の余暇活動としてレクリエーション活動なども行っています。

さまざまな作業や活動を通じて、利用者一人ひとりが心と身体のリハビリとしてや自立した社会生活を送るために日々活動しています。



杉並・あしたの会福祉作業所は

- ①利用者の意思と人格を尊重し、一人ひとりを大切にします
- ②地域とのかかわりを大事にして活動します
- ③すべての障害者の生活と権利をまもっていきます
- ④職員同士の連携を密にして、働きやすい環境づくりに努めます

という4つの運営理念の下、「利用する方たちが楽しく働く場」「仲間たちの憩いの場」「家族と地域の方がともに参加し、ふれあいと交流を深める場」「障害者と家族の生活と権利を考える場」としての作業所を目指しつつ、利用者の方々が日々の活動を通じて社会的自立を目指すことができるようこれからも利用者とともに個人や社会のニーズに応えていける事業所になっていきたいと思ひます。

受託作業

企業から依頼されたダイレクトメールなどの封入封緘、宛名シール貼りなどを行っています。



みんなが取り組むことができるようにするために、作業工程の細分化や補助具の使用などの工夫をしています。

自主製品

ステンシル型染を行った手ぬぐい、ふきんなどの製品。織り機を使用し織り上げたマフラーや織り上げたものを活用したバックなどの製品や染物製品などを縫製や袋詰めも含め完成まで分担して行っています。



製品は、直接作業所での販売や区役所、イベントに出店。またアンテナショップなどでも委託販売を行っています。

余暇活動

レクリエーション活動は月に一度、ボッチャやテーブルゲーム、カラオケ、映画鑑賞などを行っています。また余暇活動委員会(利用者代表と職員)の企画による旅行などもあります。



「あしたの会中途障害者の第1福祉作業所」から 「杉並・あしたの会福祉作業所」



利用者 花香 安弘

私とあしたの会とのつながりは福社会館の紹介で、もうかれこれ15、6年になります。年いってからの友作りは出来るのか、又仕事についていけるのか心配でしたが職員の皆様の温かな接し方で身体も動けるようになり、慣れない仕事も楽しくなりました。その時の森松施設長が退任し、後任は若くて元気な加藤晃彦施設長に代わり、明るく楽しいあしたの会になり利用者が増え活気のある会になりました。

その後新しい4作業所が合同、「杉並・あしたの会」の出発です。岡部施設長の指揮の下、大人数の大きな船の出航です。順調な滑り出しでしたが、2月からの新型コロナの影響が10月頃から非常に厳しくなりました。そんな中、職員一同の心強い結束で仕事も休所なく通所が続けられています。職員の頑張りに感謝です。

利用者の皆様は健康に注意し、数は力です。一人の力は小さいが利用者の多くの出席で杉並・あしたの会の発展になる様、健康に注意し、頑張っていきます。



私たちの作業所

利用者 石原 裕一郎

人生とはつらいもの。しかし同時に「人生は生き抜く価値が必ずある」と誰もが信じて生きている。だから人は希望を持ち続けながら前に進むことができるのだろう。そのように思えば希望とは「この世を動かす個々の力」と考えて間違いなさそうだ。

それでは「人生を楽しく上手に生き抜くため」にはどうしたらよいのだろう。それは生きるに値するちょっとした希望を見出してみてもどうか。

今日も作業所に来て人とお喋りをする。とりとめのない会話は心を弾ませ気持ちを豊かにしてくれる。作業を通して自分の成長を感じることができ、また「今日は人の役に立つことができた」という満足感を得られたら合格だ。「一日を精一杯生きてやる」となればどんな困難にも挑むことができる。まだまだと弾き返される事があっても、長い目で見るというの間にかそれが自分の財産になっているということではないだろうか。

いくら足掻き苦しんでいる時でも、希望の光だけは見続けていたいものだ。私たちにとって作業所ってそんな明るい星。だからと言って結果を求めるあまり、人生を速く走りすぎないように作業所は優しくコントロールしてくれる。過程と結果を同時に満たしていくには賢明にそしてゆっくり毎日を歩んでいくのがいい。そんな作業所の見守り方が「楽しく上手に生き抜くため」の手助けとなっている。作業所は私たちがつまづいた事に興味は無く、そこからどのように立ち上がっていくかということに関心を持っている。そんな職員の皆様方の優しい視点に導かれながら私たちは今日も精一杯に生きている。

社会福祉施設における感染症対策

杉並ゆりかご保育園

看護師 小笠原洋子

私が保育園の看護師になり二十数年、入職した当時（1997年）はまだ「感染症対応マニュアル」はありませんでした。東京都社会福祉協議会（東社協）の「保健部会」の情報交換を通して保育保健の情報を集め、「感染症対応マニュアル」の作成に着手しました。今のようにネットから容易に情報を入手することは困難でした。各種マニュアル作りの始まりでした。2008年になって厚生労働省より「保育所における感染症対策ガイドライン」が出されました。

わが国では、1999年4月「伝染病予防法」から「感染症法（正式名称：感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律）」が施行されました。2002年11月東アジアを中心として世界各国に広がった「SARS（重症急性呼吸器症候群）」、高病原性鳥インフルエンザ（H5N1）の感染拡大状況と新型インフルエンザが発生した場合に備え、2008年5月に改正。その後も2009年鳥インフルエンザA（H5N1）、2012年中東呼吸器症候群（MERS）、2020年新型コロナウイルスなど変化する感染症に応じて、法体制が整えられてきました。

◆感染症に関する基本的事項◆

乳幼児は抵抗力が弱く、身体機能が未熟です。また、疾病を抱える大人、殊に高齢者においても正しい知識や情報を基に、感染症対策が必要です。例えば、インフルエンザウイルスやノロウイルスなど、集団感染がしばしば発生します。これは、園児や利用者だけでなく職員も同様です。鼻汁などの分泌物やおう吐物、下痢便などは病原体を含んでいるものとして、その処理には十分に気を付け、手洗い・うがい・咳エチケットなどの衛生習慣については各々ができるように健康教育を行っています。



◆感染症の予防◆

感染症を予防するには、病原体に有効なワクチンを接種することが有効です。予防接種は、個人の予防だけでなく周囲にも感染させ

ない効果や、薬が効かない耐性菌による重症の感染症を防ぐ効果があります。接種する人が多くなれば、その病気にかかる人は減ります。予防接種には感染症を世の中から根絶させられるものもあり、人類にとって大切なものです。0歳で受ける予防接種は6~7種類、接種回数は15回以上、今では同時接種が基本で接種スケジュールを立てるのも大変です。高齢者においては肺炎のリスクが高まるため、肺炎球菌やインフルエンザの予防接種についても情報提供をします。

◆感染症発症時の対応◆

感染拡大予防の為、流行時には状況の周知を利用者及び職員に行なっています。医療機関への受診や子ども自身の療養・感染拡大を予防するための家庭保育をお願いする際には、自身の子育て経験から仕事と子育ての支援を保護者に寄り添いながら対応してきました。職員に対しては時期が来ると流行する前に研修を行い対応できるように毎年確認しています。

◆感染症対策を行うための体制づくり◆

感染症対策は正職、パート職員、関係なくチームで連携しながら対応する事が大事です。感染症流行時には遊具の消毒及び環境整備、よく触れる場所の消毒など、全ての事業において区や保健所などの指導を受け全体で取り組んでいます。

嘱託医の可児先生には20年以上園児の成長発達を見ていただいています。2009年の新型インフルエンザの際には、希望する園児の予防接種を保育園で行うなどの対応をして頂きました。

2020年、新型コロナウイルス感染症が国内外で広がり始め、マスク、ペーパータオル、ゴム手袋、アルコール消毒液などの保健衛生資材の確保や保育園行事・活動について保健の立場から、法人間で感染症対策に取り組みました。

4月7日「緊急事態宣言」が出され、杉並区は保育園の休園を決定しました。保育園が長期に休園になることは始めてのこと。約2か月の休園期間を経て保育が少しずつ再開、行事や活動の中止・縮小、新しい生活様式になかなか慣れない、大人はマスクで顔半分が見えないという状況で、乳幼児期の子どもの心身の育ちに今後、影響しないかと心配です。

2021年1月、2度目の「緊急事態宣言」。コロナウイルスは就学前の子どもはかかりにくく症状も軽いことがわかってきました。しかし高齢者等の施設では感染に対する不安や重症化、医療現場のひっ迫など様々な問題があります。

ワクチン接種、集団免疫の獲得、新型コロナウイルスが終息しても感染症との闘いは終わりません。感染症に負けない身体づくりが重要です。それには日頃の生活習慣が大きく関わっています。毎日の食事・運動・休養(睡眠)を見直し、免疫力を高めストレスを溜めない等、意識的に生活する事が大事です。

あとがき

1955年杉並組合病院(現、東京西部保健生活協同組合せいきょう診療所)女医高倉信医師の育児相談を機に託児事業に着手。無認可保育所に移行して15年。女性の社会進出に伴い認可保育園設立の地域要求が高まり、せいきょう診療所が母体に認可保育園建設に着手。

1971年生協事業のシンボルマーク“虹”を法人名に『社会福祉法人虹旗社』が発足し、法人第1号事業「杉並ゆりかご保育園」が誕生しました。当時“いち法人1施設”とされていた制度が改正され、虹旗社の事業も地域要求に基づき拡大、現在に至っています。

法人設立50年を迎えるにあたり、一昨年より「50周年記念行事実行委員会」を設置し、50周年をどう迎えるか協議の結果、委員会は50周年記念誌編集委員会に移行し、地域要求に基づき事業拡大した虹旗社の50年のあゆみ、各事業紹介、そして今後も地域と共にとの思いを込めて法人記念誌『地域と共に』を発行する事となりました。

新型コロナウイルスの蔓延に伴い、緊急事態宣言がこの間2回発令、編集委員会を開催し協議する事が困難な編集作業となりましたが、何とか発行する事が出来たのは原稿執筆者の皆さま及び委員の皆さまの努力によるものです。有難うございます。

法人事業の拡大、躍進の50年ですが、“コロナ”蔓延は世界的に先の見えない人類にとって最悪な時代。そんな中で設立当初より「子ども達に戦争のない平和な未来を！」と掲げてきた事が、この1月22日『核兵器禁止条約』が国連で発効。核兵器は違法とされた事はコロナ禍の中、光が射した年となりました。

50年を機に更なる法人の躍進と発展に向けて利用者、地域の皆さん、職員及び関係者の方々のお力添えをお願いし、あとがきとさせていただきます。柳澤 拓子

50周年記念誌

2021年3月31日(水)発行
編 集 50周年記念誌編集委員会
発 行 社会福祉法人 虹旗社
東京都杉並区成田東 1-18-8
TEL (03)3312-5851

URL <https://www.ans.co.jp/u/kohkisha/>

印 刷 株式会社渡辺印刷
東京都あきる野市野辺 616-2
TEL・fax 042-558-4768

編集委員

大沼隆・岡部貴夫・木澤恵美子
杉浦英祐・芹川由紀・永田尋子
仲村きょう子・羽毛田枝美子
最上万希・柳澤拓子

役 員

【理 事】荒畑正子・大沼隆・岡部貴夫・
木澤恵美子・佐々木亜古・仲村きょう子
横木泰晴・柳澤拓子
【監 事】中島宏治・渡辺幸一

